

## 令和4年度 学校経営計画

### 1 学校教育目標

- ・ 知性を磨き、社会の進展に対応できる力を育てる。
- ・ 自他尊重の精神と情操豊かな心を育てる。
- ・ 健全な心身と未来を拓くたくましい力を育てる。

### 2 学校の特色

- ・ 5学科各学年6クラスの総合制高校として魅力ある教育活動が展開できるよう、各学科の特性や生徒の実態等を踏まえ、一人ひとりの自己実現の達成をめざした教育活動を推進しています。
- ・ 地域との結びつきがきわめて強い氷見市で唯一の高校です。生徒の気質は明るく素直で、学習や部活動、生徒会活動をはじめ学校生活全般にわたって、ひたむきに一所懸命に取り組む校風があります。
- ・ 普通科では、ほとんどの生徒が国公立大学を主とした四年制大学等、進学を目指しており、2年次より文理探究コース、理系、文系の類型別授業を編成しています。基礎重視の授業と個別面談をもとに、生徒個々の興味・関心や進路希望等に応じた学習活動の充実に取り組んでいます。
- ・ 専門学科は、農業科学科(20名)・海洋科学科(20名)、ビジネス科(40名)、生活福祉科(40名)の3学級で構成しており、基礎学力の向上を重視するとともに、体験的学習や資格取得などを通して、進路実現に向けた知識・技術の習得にも取り組んでいます。
- ・ 令和2年度に文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」事業特例校の指定を受け、1学年の「総合的な探究の時間」を代替えし、新たに設定した学校設定科目「未来講座 HIMI 学」では、氷見を中心とするフィールドワークを取り入れて地域調査や研究を行うことで、知識や体験を増やし、物事を探究する姿勢や学ぶ力を育成する課題解決型の探究学習を実践しています。さらに今年度2学年普通科では、学校設定科目「シチズンシップ」において、1年次の活動を下地に地域課題を自立して設定し、方策をまとめて発信する取り組みを行います。また、進路実現をサポートする「キャリア教育」の推進、各学科の枠を越えて将来への広い視野のために科目選択ができる「総合選択制」の導入など、特色ある教育活動を推進しています。

### 3 学校の現状と課題

本校では『文武両道』の校風を大切に、学習と部活動の両立に努めています。部活動では、平成29年度の選抜大会、平成30年度の選手権大会・国民体育大会のすべてにおいて、全国制覇を果たした男子ハンドボール部の活躍をはじめとして、自転車競技部やその他多くの運動部、文化部が輝かしい成果を上げています。一方、生徒の学習意欲や進路意識の多様化が進む中、学校全体として学習指導及び進路指導体制を明確にし、生徒の学習意欲の向上を図ることが一層求められています。また、生活面においては、生徒の社会性や規範意識を醸成し、家庭や地域との連携に根ざした信頼される学校づくりを進める必要があります。

以上のことを踏まえ、本校では、次の「育成を目指す資質・能力に関する方針」を定め、学校経営に係る様々な課題に取り組んでいきます。

- (1) 自育する力（社会に有為な自己像を設定して、現状の自分を省察し、たゆまず学び続ける人物）
- (2) 連携する力（他者理解と尊重に努め、目的達成のための自分の役割を意識して協働できる人物）
- (3) 探究する力（自分を取り巻く社会を愛し貢献を果たす態度と、問題解決の手法を身につけた人物）

4 学校教育計画

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
1	学習活動	目標	<p>① 生徒の学習意欲を高め、自主的に学習する態度を確立することにより、生徒の学力の向上を図る。</p> <p>② 生徒の実態に応じた学習内容の準備や指導方法を工夫するために、教員の実践的な教科指導力の向上を図る。</p>
		計画	<p>① <u>生徒の実態調査や面接等によって家庭学習の実態把握に努めながら、学習意欲を引き出す授業改善や基礎基本を定着する小テスト等の実施によって、自主的な学習習慣の確立を図る。</u></p> <p>② 観点別評価導入を契機として、学習目標を生徒と共有した授業を軸に、段階制を意識した指導過程を工夫し、互見授業を通して研鑽し合うことで授業改善を進める。</p> <p>③ 大学入学者選抜への対応を学校全体で進めていく。具体的には、教員間で進路情報の共有を深めて面接内容の充実を図ることに加え、生徒個々の進路目標に照らし学習面での到達度を生徒が確認できるシステムの再整備を進める。<u>また、ICT機器を活用した授業の実践事例を積み重ねつつ、校内外の研修を通して新たな活用方法に関する知見を得て、今後の授業開発に活かしながら「確かな学力」の育成に努める。全教員がICT機器を活用した授業改善に努める。</u></p> <p>④ <u>氷見市と連携協力に関する包括協定を結んでおり、「地域協働学習」を通して「地域と一体となった学校づくり」を推進し地域との協働体制の拡充に努める。生徒が地域をフィールドに学び、地域の方々と共に課題発見、解決に向けて努力することで主体的に地域づくりに関わる。また、この取り組みを通して、地域人材を育成するカリキュラム開発と実践を行い、地域創生に主体的に携わる人材の育成を図る。</u></p>
2	学校生活	目標	<p>① 基本的な生活習慣を自主的に身に付けるとともに、社会的責任と役割を自覚して、自律した行動ができる人間に育てる。</p> <p>② 心身の健康保持・増進に関する理解と関心を深め、自己有用感を持って有意義な学校生活を営む態度を育成する。</p> <p>③ 環境への配慮の意識や美化意識の向上を図り実践する態度を養う。</p>
		計画	<p>① <u>県下一斉に実施される「さわやか運動」や本校の「氷高ささわやかディ」を通じた挨拶の励行や遅刻防止、交通・乗車マナーを守ることや服装を整えることなどの基本的な生活習慣を、校風委員による呼びかけ等、生徒相互のチェック機能を働かせながら、身に付けさせる。</u></p> <p>② <u>「安心して過ごせる氷見高校社会」をキーワードとして、様々な活動を展開する。いじめ撲滅や人間関係に関する悩み、問題行動を早期に把握し、各学年や保健厚生部と連携し、生徒との信頼関係に基づく対応を推進する。</u></p> <p>③ 生徒の心身不調の原因を早期に発見し、スクールカウンセラーや巡回指導員等との相談および各学年や保護者等とも適切に連携を図り対応する。</p> <p>④ <u>歯科治療率アップへの取り組みを通して、健康を大切にする意識の高揚を目指す。</u></p>

3	進路支援	目標	<p>① 自己の可能性を発見し、自己の能力と適性に合った進路選択ができるよう支援する。</p> <p>② 自己の生き方を考え、明確な職業観を踏まえた進路設計を立てさせる。</p>
		計画	<p>① <u>教員間で進路情報の共有を深めて面接内容の充実を図ることに加え、生徒個々の進路目標に照らし学習面での到達度を生徒が確認できるシステムの再整備を進める。</u></p> <p>② <u>学年間の連携を密にし、3年間を見通した継続的・計画的な進路指導体制の確立を図る。また個人面接や進路に関するHRを充実させ、生徒の進路意識が明確になるよう適切な進路指導を行う。</u></p> <p>③ <u>就職指導については、2学年の専門学科が一斉に行うインターンシップに取り組むとともに、3学年については、求人票に基づく企業研究や会社訪問等を通して職業観や勤労意欲を持たせる。</u></p>
4	特別活動	目標	<p>① 学校行事、部活動、ボランティア活動等への積極的な参加を通して自主性・積極性・思いやりの心を育てる。</p> <p>② 諸行事の企画や運営を通して集団の一員としての自覚を高め、たくましく生きる力と好ましい人間関係を備えた生徒を育てる。</p>
		計画	<p>① <u>コロナ禍においても生徒が積極的に学校行事に参加できるよう、生徒会が中心となって生徒と教職員の意見や要望を集約し、行事の内容を充実させる。</u></p> <p>② <u>限られた時間を有効に活用し、休養日を含めたメリハリのある部活動の取り組みを目指しながら、人間性の向上を図るよう意識づける。</u></p> <p>③ <u>ボランティア推進委員会を中心に、各専門学科クラブ、部活動と連携して、SDGsを意識し、生徒の主体性に基づいて、身近で今できるボランティア活動を推進する。</u></p>
5	その他	目標	<p>① 本校の様々な教育活動に対して保護者や地域の理解を得るよう努め、連携して生徒の育成を図る。</p> <p>② 適切な情報発信力の育成及び情報共有手段の活用を図る。</p>
		計画	<p>① <u>地域と連携した活動への参加を積極的に進める一方、PTA参加行事の内容をより保護者の関心が高いものとなるよう検討することでより多くの方々の学校行事等への参加を目指すことを旨とする。ただし、本年度は新型コロナウイルス感染防止対策を十分に取って実施する。また、不参加の保護者には、資料だけでなく、活動報告や意見、質問事項なども追加して配布する。</u></p> <p>② 情報機器の適切で安全な利用について、情報モラルの育成を図る。</p> <p>③ <u>「氷高ほっとメール(教育情報メール)」の保護者登録率の向上を図る。リアルタイムに情報発信を発信し、一斉メール以外に学年や学科に特化した情報の配信を通して、家庭に情報を伝えることで、協力体制のさらなる充実を図る。</u></p>

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和4年度 氷見高等学校アクションプラン - 1の1 -																																					
重点項目	学習活動（生徒の主体的な学び）																																				
重点課題	授業及び家庭学習への意欲の醸成																																				
現 状	<p>① 【家庭学習時間】</p> <p>本校では、1学期と2学期の期末考査中の学習時間調査を全学科、全学年の生徒を対象に実施している。過去3年間の結果を下表に示す。昨年度は定期考査前の調査期間を拡張したため一昨年よりも、やや学習時間が少なくなっている。また、定期考査前の準備期間の取りかかりが、特に休日について低調に見える。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学 科</th> <th colspan="2">普通科</th> <th colspan="2">専門学科</th> </tr> <tr> <th>2学期末考査期間の学習時間</th> <th>平日2時間以上(%)</th> <th>休日3時間以上(%)</th> <th>平日2時間以上(%)</th> <th>休日3時間以上(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>68</td> <td>64</td> <td>36</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>81</td> <td>80</td> <td>52</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>79</td> <td>72</td> <td>44</td> <td>36</td> </tr> </tbody> </table> <p>そのため、平日2時間以上、休日3時間以上の学習時間について、今年度は普通科の達成目標を70%から75%に上げ、専門学科は40%を目標として設定したい。一方で、準備期間を含めて平常の授業期間の予習復習の様子を見ると、習慣化して十分な家庭学習を行っているとは言えない現状に注視して指導したい。</p> <p>② 【専門学科検定合格】</p> <p>専門学科では、各学科の専門性を高める各種検定の取得を重視する指導を行っている。昨年度の実績は下表の通りとなった。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>農業科学科</td> <td>卒業時に検定取得平均10.4種目</td> </tr> <tr> <td>海洋科学科</td> <td>食品技能検定Ⅰ類55%および水産海洋技術検定合格率60%</td> </tr> <tr> <td>ビジネス科</td> <td>卒業時に全商検定Ⅰ級合格のべ88件</td> </tr> <tr> <td>生活福祉科</td> <td>家庭科技術検定Ⅰ級合格者のべ66名</td> </tr> </tbody> </table> <p>昨年度は農業科学科と生活福祉科で十分に目標値を達成することができたが、各学科とも年度によって生徒の習熟の具合が異なるため、今年度も昨年度と同じ目標値を設定し、各学科、全学年で積極的に検定に挑戦させたい。</p>				学 科	普通科		専門学科		2学期末考査期間の学習時間	平日2時間以上(%)	休日3時間以上(%)	平日2時間以上(%)	休日3時間以上(%)	令和元年度	68	64	36	25	令和2年度	81	80	52	53	令和3年度	79	72	44	36	農業科学科	卒業時に検定取得平均10.4種目	海洋科学科	食品技能検定Ⅰ類55%および水産海洋技術検定合格率60%	ビジネス科	卒業時に全商検定Ⅰ級合格のべ88件	生活福祉科	家庭科技術検定Ⅰ級合格者のべ66名
学 科	普通科		専門学科																																		
2学期末考査期間の学習時間	平日2時間以上(%)	休日3時間以上(%)	平日2時間以上(%)	休日3時間以上(%)																																	
令和元年度	68	64	36	25																																	
令和2年度	81	80	52	53																																	
令和3年度	79	72	44	36																																	
農業科学科	卒業時に検定取得平均10.4種目																																				
海洋科学科	食品技能検定Ⅰ類55%および水産海洋技術検定合格率60%																																				
ビジネス科	卒業時に全商検定Ⅰ級合格のべ88件																																				
生活福祉科	家庭科技術検定Ⅰ級合格者のべ66名																																				
達成目標	<p>① 定期考査1週間前からの家庭学習の時間</p> <p>平日2時間以上 休日3時間以上 普通科・・・75%以上 専門学科・・・40%以上</p>	<p>② 専門学科検定合格状況</p> <p>(農)卒業時に取得検定平均7種目以上 (海)食品技能検定第Ⅰ類、水産海洋技術検定の合格者60%以上 (ビ)卒業時、全商検定Ⅰ級合格100件以上 (生)家庭科技術検定Ⅰ級合格者50名以上</p>																																			
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度は調査期間を考査1週間前からに広げることで、考査に向けての家庭学習の必要性を生徒に意識させた。今年度は、考査期間以外でも学習時間調査を行い、生徒の家庭学習の実態をさらに把握するとともに、適切な家庭課題の提示やICTを活用し、学習への意欲の向上を図りたい。</li> <li>・担任はアンケート調査や個人面接等で生徒の実態把握に努め、生活リズムの改善や各自の進路目標達成に向けての学習意欲の向上を促す。</li> <li>・授業中にスモールステップでの小テストなどを重ねることで、予習の習慣を定着させるとともに、学習による達成感を得させる契機とする。また、観点別評価を取り入れることで、主体的に学びに向かう姿勢を育てていきたい。</li> <li>・年2回実施している互研授業週間において、ICTの活用や観点別評価を取り入れた研究授業を行うことで、主体的な学びにつながる授業改善を全教員で行っていききたい。</li> </ul>																																				

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)

令和4年度 氷見高等学校アクションプラン - 1の2 -

重点項目	学習活動 (教科実践 教員の活動)	
重点課題	地域協働学習と ICT 教育活用による学びの魅力化	
現 状	<p>【地域協働学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本校は、令和2年度文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」事業特例校及び富山県教育委員会「未来人材育成事業」の指定を受けている。氷見市の「ひみ教育魅力化会議」等、関係機関及び民間事業者の多くの支援のもと、令和3年度は「未来講座HIMI学」「シチズンシップ」など地域協働学習にのべ204人の外部人材の協力を得て、新学習指導要領が目指す学びのプロセスのうち「学び方を学ぶ」「生きる力を育む」探究学習を実施することができた。生徒の講座に対する満足度は93.5%と高く、今年度も1学年「未来講座HIMI学」、2学年普通科「シチズンシップ」においてその取り組みを引き継ぐ。探究学習の学びの価値を校外で共有しながら周知を図るとともに、カリキュラム構成や評価方法等も新学習指導要領が目指す方向性に鑑みて磨き上げ、今後も継続させる必要がある。</li> </ul> <p>【ICT教育活用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>急速な情報通信技術の進展やグローバル化など生徒を取り巻く環境は大きく変化している。生徒たちの学びの場である学校においてもICTの持つ特長を効果的に活用することにより生徒たちにとってわかりやすい授業を実現し、基礎的、基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力、主体的に学習に取り組む態度の育成など「確かな学力」を育成することができる。そのためにも全教員がICTを活用した授業改善に努める必要がある。</li> </ul>	
達成目標	<p>①「地域協働学習」を通して「地域と一体になった学校づくり」を推進し地域との協働体制の確立に努める。生徒が地域をフィールドに学び地域の方々と共に課題を発見したり解決に向けて努力したりすることで主体的に地域づくりに関わる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みに対する生徒の満足度 80%</li> </ul>	<p>②地域における「地域協働学習」の認知度を高め、相互にとって価値のある取り組みを一層広げるよう努力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、新たに地域協働学習に参画してくださる外部の方の人数 20人</li> <li>・外部協力者の地域協働学習への好評価 80%</li> </ul>
	<p>③多くの教員がICTを活用した授業を実践し、研修や教員相互による授業参観によって、さらなる授業技術の向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の授業等におけるICT活用 80%</li> </ul>	
方 策	<p>① 地域学習支援員(氷見市地域おこし協力隊)を中心に氷見市地域振興課をはじめ、大学教授等の協力を仰ぎ、「未来講座HIMI学」、「シチズンシップ」において外部人材との連携を密にする。</p> <p>② 「未来講座HIMI学」、「シチズンシップ」の指導計画を「地域協働学習」を柱にまとめ、趣旨等共通理解のもと、探究学習が進められるよう教員も協働し学習する組織を実現する。</p> <p>③ 全教員がICTを活用した授業の実践と工夫、改善に対応できるよう、教育クラウド利用研修会を実施する。また、互研授業週間にICTを効果的に活用した研究授業を公開し、参観を促すことで全ての教員がICTを用いた授業展開の研究を進める環境づくりを行う。</p>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和4年度 氷見高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活（心身ともに健康で充実した高校生活）		
重点課題	「誇りに思える氷見高校社会」「安心して過ごせる氷見高校社会」の構築に向けての社会観と健康を大切にする意識の育成		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さわやかな挨拶を交し合える学校を目指し、定期的に「あいさつ運動」を行っているが、挨拶の価値を心から意識して行う生徒はまだ少ない。また、制服の着こなしや校内における携帯電話の取り扱いに関しても、一部には意識の低い生徒が見られる。「誇りに思える氷見高校社会」を創造することで、自己有用感を持って学校生活を送ることができるようにする必要がある。</li> <li>・人間関係における不安や悩みは、常に注視すべきことである。「安心して過ごせる氷見高校社会」を生徒と一体となって創造するという視点で、向上に邁進する学校生活を安定して送ることができるようにする必要がある。</li> <li>・一般的に高校へ入学すると、健康診断結果による治療よりも部活動を優先してしまうなど健康管理が疎かになる傾向があるため、自立的な健康管理の意識付けを行う必要がある。特に、歯科検診では、本人が不調を感じていない場合に受診せずに済ませてしまい、治療率が向上しない現状がある。また、コロナ禍のため、治療のタイミングを逃してしまう場合もある。</li> </ul>		
達成目標	① 挨拶・服装・交通マナー・携帯電話の取り扱い等の規範意識の向上	② いじめ撲滅等、「安心して過ごせる氷見高校社会」に関する意識の向上	③ 歯科治療率アップのための働きかけ
	生徒意識調査における挨拶や服装等に係る意識率 95%以上	生徒意識調査における「安心して過ごせる氷見高校社会」の創造に対する意識率 100%	歯科治療率 50%以上
方 策	<p>① 「誇りに思える氷見高校社会」をキーワードに、県下一斉による年1回の「さわやか運動」、本校独自による各学期初めの「氷高さわやかウィーク」や年6回の「氷高さわやかデイ」の取り組みにおいて、挨拶の意義を事前指導し、挨拶の価値を意識させながら実施する。また、校風委員会及び交通委員会等の委員会活動として取り組ませることで、生徒の主体性に基づき、「挨拶の励行」「交通安全（自転車乗車マナー等）」「校内における携帯電話の取り扱いについて」など社会的マナーの向上に努める。</p> <p>② 「安心して過ごせる氷見高校社会」をキーワードとして、様々な活動を展開する。具体的には、集会等で「命の尊重」を訴えるとともに、学期ごとを基本にアンケートを実施することで、人間関係に関する悩みや問題行動を早期に把握する。さらに、得た情報をもとに、迅速かつ周到に対応する体制を構築する。</p>		<p>③・保護者会の際に歯科治療カードを再度配布し、長期休業中などに治療するように促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスごとの治療率に差が生じるため、状況を集約して担任にも知らせ、個々の生徒に必要な性を確認し、指導する。</li> <li>・コロナ禍における県内の感染状況が落ち着いている時期や、3年生の入試の落ち着いた時期を見計らい、タイミングよく治療を促す。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)

令和4年度 氷見高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（生徒の進路実現と進路指導）	
重点課題	進路意識・知識の強化と組織的な進路指導力向上の取り組み	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実現の過程は複雑であり、職業や上級学校についての理解度や、進路決定の方策（入学試験、就職試験など）に対する基礎的、基本的な知識量に課題がある。進路学習等、進路実現に向けた生徒の主体的な活動ペースを向上させる必要がある。</li> <li>・1～2学年の全体的な進路学習の機会は、タイトなスケジュールの中で限られている。生徒自身が進路について継続的に考え、職業や「なりたい自分」について話をする雰囲気醸成する必要がある。高い志を持って進路実現に挑戦する生徒を育成する体制強化が重要である。</li> <li>・3学年は、9月の就職試験から3月の国公立大学後期日程まで7か月にわたる多様な受験を指導・サポートする。5学科それぞれの特性と個々の生徒が培ってきた様々な学力が、進路選択と受験にメリットとなるよう、学年、教科、各部署との連携をより密にする必要がある。</li> <li>・面談技術や受験情報の収集・提示方法、保護者との連携など、進路指導のノウハウを蓄積・向上させる体制の充実を図る必要がある。</li> </ul>	
達成目標	① 進路実現の手立てについて、生徒の理解と主体的な行動の促進	② 進路関連行事や個人面接等の充実と進路意識の高揚
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事以外の大学等見学、企業見学やオープンキャンパスへの参加率（オンライン参加含む） 1学年＝40%以上、2学年＝50%以上 3学年＝75%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路統一ホームルームや大学等見学の満足度 70%以上</li> <li>・生徒が感じる面接等の満足度 80%以上</li> </ul>
	③ 進路希望の実現（第3学年 進学希望者）	④ 進路希望の実現（第3学年 就職希望者）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年9月進路希望調査（校種）に対し 普通科：第一志望達成率 70% 専門学科：第一志望達成率 80%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職希望者の就職内定率 100%</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア学習と進路の手立てを知る機会を設けるなど、各学年に応じた計画的な進路指導を行うことで、早期に自己の適性の理解及び将来設計を具体化させ、意欲的に学習ができるように指導する。</li> <li>・進路に関するホームルームを実施し、より効果的な系統指導プログラムを作成して、学年全体での計画的な指導体制の共有化を図る（進路統一ホームルームを年3回程度実施）</li> <li>・各学年と連携し、3年間を見通した進路指導を行う。 1年次…「進路講話」「職業人から学ぶ」「文理選択」「進路ガイダンス」「卒業生と語る会」他 2年次…「大学等見学」「修学旅行（班別研修）」「学部学科の研究」「卒業生と語る会」「インターンシップ」他 3年次…「大学見学」（普通科）「進路ガイダンス」「オープンキャンパス」「就職説明会」「企業見学」「進学検討会」他</li> <li>・「面接重点期間」をおおむね学期ごとに設定し、複数教員で情報共有を図る体制を推奨、実践する。</li> <li>・学力と進路情報について校内ネットワークを利用し、教員間で共有する。また、Google classroomを使用して、生徒への情報提供やアンケート調査等を行う。</li> </ul>	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった）

令和4年度 氷見高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動		
重点課題	コロナ禍における学校行事・部活動及び地域連携活動の活性化		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事は、今年度も、コロナ禍での実施が予想される。昨年度は、生徒会執行部を中心に、コロナ禍でも取り組める企画・運営を行った。その結果、参加意識や達成感を感じた生徒が増えた。今年度も、生徒の意見を取り入れながら、生徒中心の行事となるよう、工夫して実施したい。</li> <li>部活動は、全校生徒の約90%が加入しており、生徒の自己肯定感の向上に大いに寄与している。今年度も、コロナ禍で活動制限のあるなか、明確な活動計画と集中した時間活用の工夫が必要である。また、生徒が前向きになれるような支援も求められる。</li> <li>今年度、コロナ禍で自粛してきたボランティア活動を再開する動きが目立つ。地域の美化活動だけではなく、ボランティア推進委員会を中心に家庭クラブやJRC部等とも連携し、ボランティア活動に参加する生徒を増やしていく必要がある。</li> </ul>		
達成目標	① 各学校行事の内容の充実	② 部活動に参加することで自己肯定感を高める生徒の増加	③ SDGsに基づくボランティア活動への参加意識の高揚
	各行事に対する生徒の満足度 80%以上	3学年生徒の満足度 80%以上	美化活動、環境保全活動、募金活動への全校生徒の意欲的参加
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 各行事の前に各種委員会の開催や生徒会便りの発行を行い、行事についての実施要項等を周知していく。また、行事後にアンケートを行うことで、生徒の達成感が高まるよう改善点を加え、次年度に活かすよう工夫する。</li> <li>② 部活動で人間性の向上を図ることの大切さを全校生徒に意識させつつ、メリハリのある取り組みを促す。3年生に、アンケートで部活動に対する意識調査を行い、結果を各部顧問に知らせ、前向きになれるよう支援活動に生かす。</li> <li>③ ボランティア推進委員会を中心に、SDGsを意識したボランティア活動のポスターの掲示や放送などを通して、全校生徒に積極的な参加を呼びかけるとともに、ボランティア後の記録や感想を残すなど振り返りの機会を設ける。</li> </ul>		

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)



令和4年度 氷見高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	その他（情報発信及び家庭との連携）	
重点課題	適切な情報発信及び保護者との情報共有の推進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭との連携を図るために、PTA活動への積極的な参加を呼びかけている。令和2年度はコロナ禍により中止となった。令和3年度は感染状況を踏まえ、感染拡大防止対策の徹底、内容を精選し、時間を短縮してPTA総会等を開催した。総会への参加保護者数は、25.9%。3年専門学科研修会74.1%、3年普通科研修会84.5%。コロナ禍にあっても3学年PTA研修会のニーズは高く、参加率は増加している。</li> <li>令和元年度より「PTAと生徒の懇談会」を開催している。昨年度も2回の懇談会を実施し、学校生活や部活動に必要な物品などの要望について話し合い、より充実した学校生活を送ることができるよう予算内で優先順位を協議し整備できた。PTA研修会をはじめとする様々なPTA行事について、十分な新型コロナウイルス感染防止対策をとったうえで実施していかなければならない。</li> <li>学校と保護者との情報共有手段として、「氷高ほっとメール」（教育情報メール）への登録を毎年保護者に呼びかけている。保護者の「氷高ほっとメール」に対する理解は深まり、近年の登録率は高い水準で安定している。昨年度は96.3%であった。</li> </ul>	
達成目標	① コロナ禍におけるPTA活動の実施及び不参加者への対応	② 教育情報メール「氷高ほっとメール」の保護者登録率の向上
	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心して参加できる新型コロナウイルス感染防止対策の実施。</li> <li>感染状況を考慮した、書面やリモートなど安全なPTA活動の実施。</li> <li>PTA会報、HPを利用した不参加者への周知の工夫。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>97%以上</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事の開催案内の配布、ホームページ、メールでの情報配信を行い、PTA活動への参加を促す。</li> <li>保護者の関心が高いPTA活動においても、新型コロナウイルス感染状況によっては参加しにくい場合もある。感染防止対策をしっかりと、安心して参加してもらえるようにする。</li> <li>感染状況を考慮して、PTA役員と協議のうえ、開催形式について検討する。</li> <li>参加できなかった保護者へ資料配付だけでなく、活動報告、意見、質問事項などを追加し、今後のPTA活動に理解と協力を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>合格者説明会やPTA入会式等の機会をとらえ、「氷高ほっとメール」の利用価値が大きいことをしっかり伝え、保護者の登録を促す。</li> <li>入学以降は、特に1学期を登録推進期間として引き続き保護者に登録を勧める。</li> <li>「氷高ほっとメール」の登録をしても受信許可の設定がされていないか、アドレスに誤りがあって届かない保護者には生徒を通じて案内をする。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)